

一 般 (個 人) 質 問 通 告 一 覧 表

令和4年第4回笠岡市議会定例会

6月13日・14日・15日(3日間)

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 坂本 亮平	1 スポーツとまちづくりについて	<p>コロナ禍において様々な制限があったが徐々に緩和され、通常の生活が戻りつつある中、スポーツ界でも新たなルールを基準として運営がなされるようになっている。</p> <p>W i t h コロナにおいて新たな人流を確保し、本市の賑わいを創出するために、スポーツという観点からまちづくりを考え、以下の質問をする。</p> <p>(1) 本市の未来戦略に掲げるスポーツ振興だが、本年はVリーグ公式戦や中国サッカーリーグ公式戦の開催、宝くじスポーツフェア(ドリームベースボール)の開催等が決定し、一定の盛り上がりが見込まれると思うが、個々が点だけに終わらず本市の今後のスポーツ振興にどうつなげていくのかを尋ねる。</p> <p>(2) スポーツは心身の健康増進だけでなく、観光客の誘致やシティプロモーションの場としても有効である。本市として観光・産業を巻き込んだスポーツツーリズムの確立を検討できないかを尋ねる。</p> <p>(3) 近年、笠岡市に関係した第一線で活躍する選手が多くおられ、バレーボール・ボクシング・BMXなど私設応援団が一生懸命に発信や活動をされている。笠岡市とスポーツ協会などが連携して、一貫性をもった、頑張る選手に対して応援の仕組みを構築できないかを尋ねる。</p> <p>(4) 今議会で提案される補正予算には、本市</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

	<p>2 運動部活動の地域移行について</p>	<p>で開催されるVリーグ公式戦に対し仮設観客席 720 席分の予算 310 万円が計上されている。スポーツ振興の一助として有効であると考えているが、この予算に対して本市が考える費用対効果を尋ねる。</p> <p>(5) 令和2年9月議会で、笠岡市総合スポーツ公園内の青空農園を移設し、スポーツ専用エリアへの変更を検討し、利用しやすい環境を整備すると答弁があったが現在の状況を尋ねる。</p> <p>5月31日に、スポーツ庁有識者会議が、2025年度までに公立中学校運動部の休日部活動地域移行の提言を了承した。機会均等のバランスや金銭的対応など、クリアする課題は多くあるが、子供たちの心身の発達や地域スポーツ振興においても、受け皿となる総合型地域スポーツクラブとの連携、社会人リーグのチームからの派遣指導など、既に他市では動きが出てきている。方針が出てから考えるのではなく一定の準備をしていくことが必要であると考え、以下の質問をする。</p> <p>(1) 各競技の地域クラブチームの把握ができていないか。また、市内部活動の実態調査はできているかを尋ねる。</p> <p>(2) 子供たちの一番の理解者は親である。今後を見据え、保護者や地域クラブチーム指導者等を対象としたアンガーマネジメントやコーチング等の講習会を実施し、受け皿となる人材を育てることはできないかを尋ねる。</p>	<p>産業部長</p> <p>教育部長</p> <p>〃</p>
<p>2 齋藤 一信</p>	<p>1 物価高騰の学校給食への影響と対応について及び、</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の長期化及びウクライナ危機による物価高騰の影響が、学校給食の値上げにつながると懸念されます。学校給食の食材費は、保護者負担が原則の考え方ではあ</p>	

	<p>地方創生臨時交付金の活用方針について</p>	<p>るものの、その考え方を維持しつつ、自治体の判断により保護者負担を増やすことなく、給食が実施できるよう、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の枠組みを、自治体が活用することを推進しています。去る4月1日に、内閣府地方創生推進室より発出された「令和4年度における新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の取扱について」の中において、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用が可能な事業(例)」の中に、“物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減”が追加されております。また、各教育委員会等に対応を促進するため、4月5日に文部科学省から事務連絡も発出されているところでもあります。これら国の動きを受け、笠岡市においてもこの度、学校給食費の原材料等の物価高騰分に同交付金を活用し対応する予算案が上程されました。そこで、今後も続く可能性のある物価高傾向の情勢下で、笠岡市の学校給食費についての考え方をお尋ねします。</p> <p>(1) 物価高騰による令和5年度の学校給食費の保護者負担への影響をお尋ねします。</p> <p>(2) 笠岡の子供たちの健やかな成長のために学校給食の栄養価、量、品質、価格の維持をぜひ、継続的に行っていただきたい。令和5年度以降の学校給食費値上げ分を笠岡市が負担することについてのお考えをお尋ねします。</p> <p>(3) 笠岡市の子育て支援策としての学校給食無償化についてのお考えをお示しく下さい。</p> <p>(4) 政府の総合緊急対策で拡充された地方創生臨時交付金の活用で、笠岡市の考える生活支援(学校給食費支援以外)及び産業支援</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	---------------------------	---	--

	2 笠岡市民病院建て替えについて	<p>案をお示してください。</p> <p>(1) 新病院建設についての基本計画策定の時期をお示してください。</p> <p>(2) 市の考える新市民病院の経営形態について方向性をお尋ねします。</p> <p>(3) 笠岡市民病院の今後の人工透析医療の対応について市の方針をお示してください。</p> <p>(4) 新病院建設に伴う財源確保についての見込み、岡山県や国との新病院建設についての協議状況についてお示してください。</p> <p>(5) 笠岡市新病院基本構想有識者会議における新しい病院の規模、経営形態について示された内容についてお知らせください。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
3 栗尾 典子	1 子ども・子育て支援の方向性について	<p>令和3年度の笠岡市の出生数は179人。少ない出生数は、コロナ禍での様々な要因によるものであり、本年度の出生数の増加を期待するところである。そこで、笠岡市の子ども・子育て支援の今後の方向性について以下を尋ねる。</p> <p>(1) 全国の出生数との比較の中で、笠岡市の現状分析と今後の出生数の推移予想を尋ねる。</p> <p>(2) 就学前教育・保育施設再編整備計画が平成31年3月に出されているが、既にスケジュールとはかけ離れたものになっている。現状の説明と今後の見通し、計画の見直しについて見解を求める。</p> <p>(3) 今後、笠岡市内の保育園、幼稚園、こども園は一定程度の規模を確保するための再編を積極的に進めていくのか、小規模保育を認め、きめ細やかな育児支援をしていくのかを尋ねる。</p> <p>(4) 現在のファミリーサポートセンターの状況、地域子育て支援拠点の利用状況、ほっと★る一むの相談状況を尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

		<p>(5) 相談に来ることを待っているのは、本来支援が必要な子供や家族にアプローチすることは難しい。笠岡市はどのようなプッシュ型支援を行っているのか、また今後の展開について尋ねる。</p> <p>(6) 女性活躍推進が進めば、これまで以上のパーソナルで質の高い保育施設や育児支援が求められると考える。笠岡市の今後の取組を尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>市長</p>
4 山本 聡	<p>1 デジタル地域通貨の可能性について</p> <p>2 プラスチックごみゼロ宣言の先に目指すもの</p>	<p>パンデミック、戦禍等先の見通せない中でも、足元の生活スタイルが次代の様相を呈しているように感じる。新政権が標榜する「新しい資本主義」の下、政府から骨太の方針案、すなわち、人への投資、科学技術、スタートアップ(新興企業)、脱炭素・デジタル化の4本案が示された。コロナ禍がもたらした新様式は閉塞感漂う日本社会が成長するための処方箋を示すとともに、課題解決に向けた行動を促す狙いがある。骨太方針の1つデジタル化は前政権でも提唱され、デジタル庁の創設につながったが、今後地域経済を含めDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するにあたり、デジタル地域通貨が行政、中小企業の起爆剤になると考える。(導入が前提/地元金融機関の協力必要)</p> <p>(1) 納税や各種証明の手数料納付、子育て世帯向けの給付金に活用できるか。</p> <p>(2) プレミア商品券的な扱いが出来るか。</p> <p>(3) 観光面(宿泊、飲食、交通費等)に活用できるか。</p> <p>SDGs, 脱炭素及びESG(環境・社会・統治)を巡って昨今の空気感に微妙な変化が漂う中ではあるが、題目ではない、地に足の着いた“プラスチックごみゼロ”に向けた取組が求められている。その戦略、具体的な戦術及び見込</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p>

	3 インフラメンテナンスの推進に向けて	<p>める効果について尋ねる。</p> <p>経年劣化、老朽化へのそれぞれの対策及びBCPの観点からも今後の公共施設等総合管理が一層重要になってきた。魅力あるまちづくり(景観)を進めるためにも、コンセッション(PFI/民間資本を活用した社会資本)の導入などが考えられるが、その方針(計画)について尋ねる。</p>	市長
5 大本 邦光	1 デジタル化に伴うマイナンバーカードの普及・利活用の促進について	<p>政府は昨年9月1日のデジタル庁発足を機に、国と地方のデジタル化を進め、住民の利便性を高めたいとしています。デジタル化を進めるにあたり、柱の1つとなるのが、マイナンバーカードを活用した行政サービスの向上であります。マイナンバーカードは、令和3年10月から医療機関や薬局で健康保険証として本格的に利用できるようになり、令和4年度中にはマイナポータルから口座を登録すれば、災害時などに国が指定する給付金の支給が可能になることを目指しております。さらには、令和6年度末までに、運転免許証と一体化する仕組みの導入も目指しており、マイナンバーカードの普及は政府が重視するデジタル化推進の鍵を握るとされております。</p> <p>(1) 令和4年5月1日、総務省はマイナンバーカードの交付枚数を公表しました。人口に対する交付枚数率は、全国平均は、44.0%であります。これまで政府は、デジタル庁を中心としてマイナンバーカードの各種普及施策に取り組んできましたが、本市における現在の普及率やこれまでの推移と男女別、年齢別のマイナンバーカードの交付状況についてお尋ねします。</p> <p>(2) マイナポイント事業は、マイナカードの普及と消費喚起の目的で実施されております。2020年9月から2021年12月まで第1</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>

	2 気象庁との連携による地域防災力の強化について	<p>弾が行われ、今年1月から1人当たり最大2万円分のポイントを付与する第2弾が始まりました。さらなる普及へポイント利用の予約、申込み等の申請手続支援サポートとして本市における新たな取組についてお聞かせください。</p> <p>近年、地球の温暖化などの影響により、自然災害が激甚化・頻繁化しています。政府や自治体による適時・的確な防災対応が一層求められています。国土交通省では、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の下、被害の防止や最小化のための、防災インフラ等の整備を進めています。このハード面の整備と同時に、より正確な情報を迅速に収集し発信し、被害を最小限に抑える行動を促すための、ソフト面の取組も重要になって参ります。そこで、本市における現状と取組状況についてお尋ねします。</p>	関係部長
6 真鍋 陽子	1 新型コロナウイルス感染症について	<p>(1) 新型コロナウイルス感染症の後遺症とは何かを尋ねる。</p> <p>(2) 笠岡市における新型コロナウイルス感染症の後遺症に関する現在の問合せ数を尋ねる。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症の後遺症に悩む方に対する笠岡市の相談体制を尋ねる。</p> <p>(4) 新型コロナワクチン「ヌバキソビッド」を接種できる環境は、笠岡市内にあるのかを尋ねる。</p> <p>(5) 小学校・中学校における現在のマスク着用ルールについて尋ねる。</p> <p>(6) 市民生活におけるマスク着用ルールについて、どのように考えているか尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>教育長</p> <p>市長</p>
	2 令和4年夏投開票参議院議員選挙につ	(1) 令和元年に行われた参議院議員選挙投票率は45.66%。つまり、54.34%の有権者が投票していない。この54.34%の方々が投票	選挙管理委員会委員長

	<p>いて</p> <p>3 移住・定住・関係人口政策について</p>	<p>に行こうと行動するために、笠岡市としてできることには何があると考えているか尋ねる。</p> <p>(2) 主権者教育については、学校や教員によってかなりの格差がある。笠岡市においてその格差を無くすために行っている取組について尋ねる。</p> <p>(1) 令和4年度において、移住・定住・関係人口政策の中で、笠岡市として最も重要視していることは何かを尋ねる。</p> <p>(2) おてつたび活用の進捗状況について尋ねる。</p> <p>(3) 二地域居住とは何かを尋ねる。</p> <p>(4) 笠岡市における具体的な二地域居住政策を尋ねる。</p> <p>(5) 空地バンクの登録及び活用状況について尋ねる。</p> <p>(6) 自分の食べるものくらいは自分で作りたいたと、将来の地球環境を懸念される方々が小規模農業を始められるケースが全国的に散見される。笠岡市としてこのような方々にアピールするためにも、農林水産省事業である「オーガニックビレッジ」宣言を行う。そのために具体的な組織を立ち上げ、計画を策定することで、2050年までに有機農業の取組面積を全農地の25%にまで拡大していく「みどりの食料システム戦略」を計画的に進めていく具体的なビジョンはあるのかを尋ねる。</p> <p>(7) 笠岡市内の高校に通う学生が、高校3年間の間に1度は笠岡諸島を訪れやすくなるような制度を導入することはできないかを尋ねる。</p> <p>(8) 成人式は笠岡で育った若者たちと笠岡市</p>	<p>教育長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	-------------------------------------	---	--

	<p>4 子供たちの 健やかな育ち を保障するた めに</p>	<p>がつながる貴重な機会という認識があるかを尋ねる。</p> <p>(9) 教育移住とは何かを尋ねる。</p> <p>初めに、私はワクチン接種において最も重要視しなければならないことは、得られる「利益」と「害」のバランスであるという立場を大切にしていることをお伝えし、以下に入る。</p> <p>(1) 国による子宮頸がんワクチンの積極勧奨再開により、令和4年度6月補正予算において子宮頸がんワクチン接種のために1,539万円の予算が議会上程されている。子宮頸がんにはワクチン以外に子宮頸がん検診がある。これは定期的に受けることで、前がん病変の段階で発見し、がんになる前に治療することができる珍しい検診である。日本では子宮頸がん検診と衛生状況の改善によって、1970年代以降ワクチンなしで子宮頸がんによる死者を減らしてきた。</p> <p>内閣府男女共同参画局による令和3年度版内閣府男女共同参画白書・第7章「生涯を通じた女性の健康支援」・第1節「生涯にわたる男女の健康の包括的な支援」・1「包括的な健康支援のための体制の構築」において、「乳がん及び子宮頸がんについては、科学的根拠に基づくがん検診の推進を通じて、早期発見や死亡率の減少に努めることとし、個別の受診勧奨・再勧奨やクーポン券などの配布とともに、精密検査未受診者に対する受診再勧奨を進める「新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業」を実施し、女性特有のがん検診のさらなる受診率向上に取り組んだ」とあるが、笠岡市において子宮頸がん検診を市民にどのようにお知らせしているのか。また、その効果を</p>	<p>教育長</p> <p>関係部長</p>
--	---	--	------------------------

		<p>尋ねる。</p> <p>(2) 子宮頸がんワクチン接種対象年齢の方々に、どのように接種を勧奨していく予定かを尋ねる。</p> <p>(3) 令和4年度当初予算要望事項として総務文教委員会から小中一貫校整備事業について「新しい教育を意識した構想のもと、将来の子供の状況を踏まえて、明確な指針を立てた上で、先駆的で、魅力にあふれた特色ある施設を作ること。」と要望している。「先駆的で、魅力にあふれた特色ある施設」とはどのような施設だと解釈しているかを尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>教育長</p>
7 仁科 文秀	1 出生数減少、子育て支援と就学前教育・保育について	<p>笠岡市の令和3年度の出生数は179人と市制施行70周年にして最低の数字となっている。この数字は、本市より人口が少ない井原市や浅口市よりも少なく、本市の将来を考えると深刻な問題である。</p> <p>笠岡市では、平成30年度に市内の幼稚園、保育所を再編し、18園を幼保連携型認定こども園7園に集約する計画をつくった。</p> <p>(1) 周辺市町に比べても出生数が少なく、合計特殊出生率が低いのはなぜだと考えるか。また、出生数を増やすための本市の施策について尋ねる。</p> <p>(2) 笠岡市の子育て支援は周辺市町よりもきめ細かく、先進地と言われる所と比べても遜色がない。子育て応援アプリ「kasaoka★すくすくログ」、子育て世代包括支援センター「ほっと★はぐ」の利用状況とその結果や分析を施策にどう生かすのか尋ねる。</p> <p>(3) 今年度から、子育て世帯相談体制強化事業として、新しく導入する「チャットボット」の目的とその内容について尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>

		<p>(4) 浅口市では、高校卒業までの医療費無料化が市長の公約となっている。本市でも実施するのか、尋ねる。</p> <p>(5) 人口規模に比べて数が多い市内の保育施設。公立施設と民間施設のそれぞれの役割や在り方について、どう考えているのか尋ねる。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p>
8 原田 てつよ	<p>1 福祉避難所について</p> <p>2 笠岡市・里庄町自立支援協議会の課題について</p>	<p>令和3年5月、災害対策基本法施行規則が改正され、新たに指定福祉避難所を公示する制度が創設されたことに伴い、内閣府の策定した「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」が改定されたことを受け、岡山県においても「福祉避難所設置・運営マニュアル作成ガイドライン」が改定されました。</p> <p>事前に受入れ対象者を調整し、災害時に直接の避難等を促進するとのことでもあります。</p> <p>本市における現状と課題についてお尋ねいたします。</p> <p>令和2年4月1日から、笠岡市・里庄町相談支援センターは地域福祉課内の相談室へ、自立支援協議会の事務局は笠岡市地域福祉課が担当し、令和2年10月14日に笠岡市・里庄町自立支援協議会設立総会が73団体の登録で開催されて3年。令和4年度総会が、5月24日に78団体の登録で開催されました。一番の課題であった相談支援センターは、本年1月11日からサンライフ笠岡内に移転し、相談件数も増えているとの報告がされると同時に、相談支援事業から見てきた課題も提議されました。</p> <p>以下お考えをお尋ねいたします。</p> <p>(1) 移動支援事業所・生活介護事業所不足について</p> <p>(2) 福祉等の支援体制の情報・相談窓口等の情報提供について</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>

	3 男性の育児休業取得について	<p>(3) 自立支援協議会(相談支援センター)の事務局体制について</p> <p>令和2年12月に閣議決定された、第5次男女共同参画基本計画において、男性の育児休暇取得率を令和7年度までに30%にという目標が示されました。</p> <p>本市の男性職員の育児休業取得率と市長のお考えをお尋ねいたします。</p>	<p>関係部長</p> <p>市長</p>
9 藤井 義明	1 笠岡運動公園リニューアルについて	<p>(1) 笠岡運動公園(スポーツ施設)リニューアル計画及び各施設の完成年度並びに進捗状況をお尋ねします。</p> <p>(2) 笠岡運動公園内市営プール改修については、早急に行う必要があると考えるがどうか、お尋ねします。</p> <p>(3) フットサルコート設置についてのスケジュールをお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	2 南消防署及び救急艇について	<p>(1) 北木島に設置予定の南消防署の進捗状況をお尋ねします。</p> <p>(2) 救急艇の運航計画・運航体制についてお尋ねします。</p> <p>(3) 島しょ部における救急艇の運航説明会について、進捗状況をお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	3 笠岡市北木島高齢者共同生活住居について	<p>(1) 北木島高齢者共同生活住居は、島の日々の暮らしが不安な高齢者が住み替えて共同生活をするにより、生活の質を高め、保健及び福祉の向上を図ることを目的に設置し、島の人を島の人が見守ることによりさらに安心して住むことができるとの考えであったと理解するが、男性の方が4月23日(土)亡くなり発見は4月28日(木)のことと聞くが、なぜ発見が遅れたのかお尋ねします。</p> <p>(2) 共同生活や、管理者がいることにより、独り暮らしの不安解消を図るための施設、</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>

		<p>孤独死の解消の施設ではなかったのかお尋ねします。</p> <p>(3) 指定管理者名及び期間をお尋ねします。</p> <p>(4) 指定管理者の業務をお尋ねします。</p> <p>(5) 緊急時の対応についてお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
10 大月 隆司	1 包括ケアシステムについて	<p>日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行している。65歳以上の人口は、令和3年12月1日時点で3,622万人となり、2042年の約3,900万人でピークを迎えるが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されている。</p> <p>このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年(令和7年)以降は、医療や介護の需要が、さらに増加することが全国的には見込まれている。</p> <p>このため、厚生労働省においては、2025年(令和7年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進している。</p> <p>現在、笠岡市の高齢化率は36.7%(令和3年2月末現在)となっており、団塊の世代が後期高齢者となる、令和7年(2025年)度には38.7%となる見込みである。そうした中で、高齢者人口に関しては平成31年2月末をピークに緩やかな減少に転じている。今後とも、高齢者人口全体は緩やかに減少するものの、後期高齢者人口は、令和8年(2026年)度にピークを迎える見込みとなっている。</p> <p>ゲンキプランの第6期から取り組んでいる、団塊の世代が75歳以上となる2025年と団塊ジュニア世代が65歳となる2040年を見据え、「地</p>	

	<p>2 自衛隊の活用について</p>	<p>域包括ケアシステム」の構築による「地域共生社会」の実現を目指して、地域包括ケア計画構築の第3段階(2021年から2023年)を推進している。以下尋ねる。</p> <p>(1) 地域共生社会の実現に向けた具体的な取組について尋ねる。</p> <p>(2) 令和2年の法改正を踏まえた介護保険事業の現状と課題について尋ねる。</p> <p>(3) 介護予防と健康づくりの現状と課題について尋ねる。</p> <p>(4) 在宅介護における介護ストレスの対策について尋ねる。</p> <p>有事の際に、国を守り国民を助ける自衛隊の活躍は、近年、大規模災害等の対応で広くその活動を周知されている。平成30年の西日本豪雨の際には、県内被災地に入り6日間で延べ21万人の隊員が派遣され、人命救助や物資輸送、瓦礫撤去、避難所での給水活動など様々な支援活動が行われた。</p> <p>災害が起きた時に私たち市民を助けてくれるのが消防・警察、そして自衛隊である。</p> <p>特に自衛隊は危機管理のプロフェッショナルであり常日頃から食料や水の確保・緊急措置など、災害時のトラブルを対処する訓練を行い実践している。こうした自衛隊の利活用について以下尋ねる。</p> <p>(1) 危機管理のプロフェッショナルとして退職自衛官(地域防災マネージャー)を防災監として採用できないか尋ねる。</p> <p>(2) 自衛隊岡山地方協力本部の実施する出前講座について、総合的な学習の時間等を利用して防災教育はできないか尋ねる。</p> <p>(3) 水防訓練、防災訓練時に消防組合・消防団との連携による訓練等、自衛隊のノウハ</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>教育長</p> <p>市長</p>
--	---------------------	--	---

		<p>ウを活用した実践的な取組ができないか尋ねる。</p>	
11 森岡 聡子	<p>1 Withコロナ時代の本市の施策について</p> <p>2 全国手話言語市区長会「手話劇祭」について</p>	<p>新型コロナウイルスは地域コミュニティーや自治体に多大な影響を与えている。特にコミュニティー活動や様々な団体の活動が休止となり、活動を辞めたグループもあると仄聞している。これからのWithコロナ時代について以下のことを尋ねる。</p> <p>(1) 新型コロナウイルスの影響を受けたコミュニティー活動の地域の実情についてどのように把握しているのか。</p> <p>(2) コロナ禍の生活における子供のコミュニケーションへの影響について(小中学生も含む)</p> <p>(3) コロナ禍で盛んになった高齢者のデジタル活用支援だが、今後のデジタルデバイト(情報格差)の解消を図る取組について</p> <p>(4) 「新しい生活様式」が浸透しつつあるが、生活の中のデジタル化の対応についての本市の考え</p> <p>(5) これからのマスク着用について(特に保育園児)</p> <p>(6) 4回目新型コロナウイルスワクチン接種対応について</p> <p>(7) 低年齢化しているコロナ患者の対応について</p> <p>(8) 認知症の方への対応について</p> <p>(9) コロナ禍により停滞、消失しつつあるコミュニティーをどうしていくのか、これからの地域づくり、地域の再生について</p> <p>「手話劇祭」は市制施行70周年記念事業である。笠岡市は手話言語条例を2018年に制定している。本市には障害者を支えて活動している福祉ボランティア協議会があり、その中の1つに</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p> <p>市長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p>

		<p>昭和 53 年 2 月 10 日に結成された「笠岡手話サークル」がある。それらに関して以下を尋ねる。</p> <p>(1) 全国手話言語市区長会の目的, 概要</p> <p>(2) 手話劇祭について</p> <p>(3) 市民, 学生, 手話のできる方などの一般市民の参加について</p> <p>(4) 開催時の新型コロナウイルス対策について</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	--	--	---------------------------------------